



# きらりん えがお

令和5年2月14日

平田幼稚園

園長 田中佳江

暦の上では立春を迎えました。まだ寒い日もありますが、一步一步春に近づいていることを感じます。6日(月)の朝はとても冷え込み、霜が降りていました。登園してきた子ども達はさっそく先生や友達と園庭に出て、霜を見つけて遊びました。「先生、土が硬い!」「白くなってるね」「見て!葉っぱのへり側が白くなってるよ」・・・なぜ霜が降りるのか、難しい理由はわかりませんが、冬の自然現象の不思議や気づきをたくさん見つけていたようでした。

## 節分会をしました

立春の前日は節分。幼稚園でも各クラスで鬼に負けないような鬼の面を作りました。そして、「おには~そと」とテラスから豆まきをしようとする「ドーン!ドーン!!」という音と共に赤鬼と青鬼が幼稚園にやってきました。怖がって泣いたり先生にしがみついたりする子、どうしていいかわからず一歩も動けない子、勇気を振り絞って鬼に豆をまく子・・・いろいろな姿が見られました。鬼が退散していくと、みんなでもう一度「おには~そと!」と袋に入った豆(誤飲を防ぐため)を投げ鬼退治をしました。その後、美しい(?)福の神が美味しいおやつを持ってきてくれ、泣いていた子の涙もおさまりました。「節分」の由来は、旧暦の立春が新年だったためその前の日に邪気を払うのが始まりだったようです。季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払うために豆まきを行ったようです。以前は歳の数だけ豆を食べ、一年の健康を祈っていましたが、これも誤飲を防ぐため中止とし、大豆ビスケットを食べて健康を祈りました。年々、こうした昔ながらの行事が姿を消していくようですが、そこに込められた願いを受け継ぎ、しっかりと豆まきをしましたよ。



## 節分のその後の活動・・・

節分に鬼に向かって豆まきをした経験から、年少・年中クラスでは鬼の活動が始まりました。以前にも書きましたが、年少児はとにかく行事が初めてなのでそこで経験したことから遊びが広がります。教師が段ボールで大きな鬼を作り、子ども達が色塗りをして出来上がった『鬼に豆を投げよう』の遊び。大きな鬼2匹が大きな口を開けています。そこへ新聞紙を丸めた『豆』を「おには~そと!!」と言いながら鬼の口めがけて投げ入れます。威勢がいいですよ。年中児は、同じような大きさの段ボールに色を塗り、重ねて一番上に鬼の顔の段ボールを置いて、新聞紙をガムテープで硬く丸めて作った『豆』を投げて倒す、いわゆる『だるま落とし』風の遊びを考えて遊んでいます。全部倒すと、福の神役の子が現れて「ご褒美」をくれます。ゲームの要素や役割分担などが見られます。1年経験が違くと、同じ鬼の遊びでもこんなに違うんだと、感心して見えています。ちなみに、年長児は節分の豆まきが終わったらそれで気持ちを切り替え、チャレンジ遊びをしていますよ。



## 今年度最後の保育公開

9日(木)は、今年度最後の保育公開日でした。年少・年中組と年長組とで時間を分け、今取り組んでいる遊びを見てもらいました。年少組は、貨物列車・フルーツバスケット・お正月遊びなど、簡単なルールのある遊びを友達と楽しんでいました。年中組は、遊戯室で鬼ごっこをしました。鬼役は2人で捕まった子はバナナの形をして助けを待ちます。鬼が捕まえた子の前でガードし、なかなか助けられないようにしたり、そんなガードをかいくぐり、後ろからタッチして助けたりして、考えながら体を思い切り動かして鬼ごっこを楽しんでいました。年長組は、運動遊びでできるようになったことを披露しました。縄跳び(短縄・長縄)・鉄棒・フラフープ・竹馬・跳び箱・一輪車。どれも難しいことばかりです。最初はなかなかできず、「もうやめた」と思ったこともあったでしょう。それでも「できるようになりたい」という強い願いをもって繰り返し練習してできるようになった素晴らしい発表でした。友達を応援する姿も印象的でした。できるようになったことはもちろん、それまでの努力やあきらめない気持ちに、大きな拍手が送られ、どの子の顔も自信満々でしたね。その後、学級懇談会を行い、これまでの育ちや今日の活動などで経験していること、これがこの先どんな力につながっていくのかななどを、教育課程の表を使って担任が説明しました。

保護者の方からの感想で「初めての幼稚園で、順番や椅子の持ち方などたくさんの事を集団生活で習ったんだと感じた」「年長児の、苦手だけど、やってみよう!の姿に成長を感じた」「学級懇談で、改めて先生方の保育の進め方、クラス運営に触れ、大きな土台に守られて導いてもらっていると感じた」「懇談では、教育目標からめざす姿を想定して各年齢に合わせたより具体性のあるめあてが設定されていることが分かった。先生方と保護者が同じような思いをもって子供の成長を支えていくためにとても良かった」など、子ども達のそれぞれの成長や平田幼稚園の教育を理解していただいていることがわかり、とても嬉しく思いました。ご多用の中お出かけいただき、ありがとうございました。

